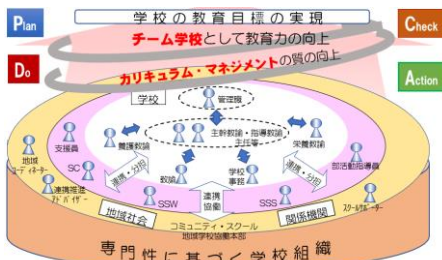




チーム学校として機能する学校組織づくり

中部教育事務では、「学校マネジメント訪問」を通じて、チーム体制構築の重要性を管理職の先生方にお伝えしています。下の図は、その際の資料の一部です。また、右の文章は、「生徒指導提要」の70ページに示された「チーム学校として機能する学校組織」を参考に記載しています。教職員一人一人がチームの一員として、連携・協働について、しっかりと考えることが大切であると考えます。



学校がチームとして機能するためには、教職員同士はもとより、教職員と多職種の専門家や地域の人々が連携・協働して教育活動を展開することが求められています。しかし、知識や経験、価値観や仕事の文化の違う者同士が関係性を築いていくのはそれほど簡単ではありません。専門性に由来するそれぞれに特有の文化やものの見方をお互いに理解し、考え方や感じ方の溝を埋めることが必要になります。そうでないと、教職員と多職種の専門家等との連携・協働が、かえってメンバーにストレスを生じさせることにもなりかねません。したがって、学校を基盤としたチームによる連携・協働を実現するためには、教職員、多職種の専門家など、学校に関係する人々に次のような姿勢が求められます。

- ① 一人で抱え込まない
- ② どんなことでも問題を全体に投げかける
- ③ 管理職を中心に、ミドルリーダーが機能するネットワークをつくる
- ④ 同僚間での継続的な振り返り(リフレクション)を大切にする

※「生徒指導提要(令和4年12月 文部科学省)」より抜粋

読書のすすめ

～読書をしている人は意識・非認知能力が高い!??～

一般的に読書をすることは、どの世代にとっても、その後の人生に与える影響は大きく、望ましいと推奨される傾向があります。読書をする効果を国立青少年教育振興機構(令和3年8月11日)が次のようにまとめています。

子どもの頃の読書量が多い人は、意識・非認知能力と認知機能が高い傾向がある。

興味・関心にあわせた読書経験が多い人ほど、小中高を通した読書量が多い傾向にある。

読書のツールに関係なく、読書している人はしていない人よりも意識・非認知能力が高い傾向があるが、本(紙媒体)で読書している人の意識・非認知能力※1は最も高い傾向がある。

※1 意識・非認知能力

- 【自己理解力】:「今の自分が好きだ」「自分には自分らしさがある」など自己肯定感を包含
- 【批判的思考力】:「ものごとを順序立てて考えることが得意だ」など客観的、多面的、論理的に考える力、自分あるいは他者の意見をまとめる力、コミュニケーション力を包含
- 【主体的行動力】:「分からないことはそのままにしないで調べる」など何事にも進んで取り組む姿勢や意欲

子どもの頃からの読書経験が大事だと考えます。夏休みを前に、子供たちも先生方も、一冊手に取ってませんか。



「教育の情報化」推進プラン

令和6年4月に「宮崎県『教育の情報化』推進プラン」が改訂されました。本プランは令和5年に策定された「宮崎県教育基本振興計画」を受け、変化が激しく予測困難な時代の中で、単に知識の習得に偏るのではなく、基礎的・基本的な知識及び技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養う教育の充実を目指していくことをねらいとして改訂されました。

ICTを活用した「ひなたの学び」の実現におき、4つの推進項目、11の取組についてまとめてあります。

これまでの教育実践とデジタルやICTをかけあわせて、児童生徒・教員の力を最大限に引き出すベストミックスな学びをイメージし、「主体的、対話的で深い学び」の視点での授業改善につなげていきましょう。



問合せ先：中部教育事務所
(担当：安部)

TEL (0985) 44-3322 Fax (0985) 44-3330
代表アドレス chubu-kyoiku@pref.miyazaki.lg.jp

中部教育事務所は、「ひなたの学び」を推進しています。